

中北.com

地域教育情報紙

チュウホクドットコム

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3008

FAX 0551-23-3013

no

3

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

甲府市代表チーム準優勝！ ～県子どもクラブ親睦球技大会～

山梨県子どもクラブ指導者連絡協議会主催の「第39回山梨県子どもクラブ親睦球技大会」が、平成22年8月14日(土)に、山梨市で開催されました。協力と団結の力を発揮すべく、県下各地の予選を勝ち抜いてきた代表チームによる親睦・交流を目的とした球技大会です。スポーツを通じて健康な体と精神を養うとともに、子どもクラブ員の親睦を深めることを第一義としています。



南アルプス市代表 藤田子どもクラブの攻撃

男子ソフトボールの部には、中北管内からは、甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市から出場し、甲府市代表の「国玉町子どもクラブ」が準優勝をしました。また甲斐市代表の「上八幡子どもクラブ」も第3位に入る活躍をしました。

女子のミニソフトバレーボールの部には、甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町から参加し、南アルプス市の「浅原子どもクラブ」が、予選リーグを勝ち抜き、第3位に入賞しました。

男子のソフトボールの部は、柔らかいボールを使用し、チーム編成は、中学生4人小学生5人とし、ピッチャーは下手投げです。女子のミニソフトバレーボールも、小学生4人、中学生4人の3セット15点制で、小学生、中学生、小中混合と、セットごとに入れ替わり、3セットの合計得点で勝敗を決めます。

各代表チームは、地区の自治会ごとの異年齢集団(小1～中3)で構成され、地域の大人や高校生の指導の元、上級生が下級生たちを助けながら練習を重ね、試合に出場しているところに特徴があります。試合中も、中学生が小学生を慰めたり、励ましたりする姿をたくさん見ました。夏休みならではの地域活動ですね。

放課後子どもプラン指導者研修会

子どもの創造性を引き出す・遊びの展開方法

8月31日(火)、県立青少年センターに山梨県レクリエーション協会専務理事の塩沢一夫先生を講師にお招きして、放課後子ども教室等の指導者を対象にした研修会が開催されました。

「子どもの創造性を引き出す・遊びの展開方法」をテーマに、子どもへの関わり方や具体的な遊びの提供などについて御指導頂きながら、指導者としての資質向上を図ることができたことと思います。

40名ほどの参加者の中で、中北地区からは13名が参加しました。

まず始めに「アイスブレイキング」で、心と体をほぐし、塩沢先生十八番の「鬼のパンツはいいパンツ」等の歌と踊りで盛り上げ、仕上げは新聞紙や広告を利用しての集団ゲームへとつなげていきました。受講者も大満足で、すぐに役立つ研修となりました。



平成22年度峡中・峡北地区合同

地域教育フォーラム

予告

全体テーマ 「地域ぐるみで子どもを育てる」

発表及びシンポジウム

- 堀内伸浩氏(長坂小学校おやじの会事務局)
「みなさんも始めませんか?『おやじの会』」
- 関 敦隆氏(子ども自然体験クラブ「エゾルカ」代表)
「家庭は生みの親、地域は育ての親」
- 堀井啓幸氏(山梨県立大学人間福祉学部教授)
「今問われる新しい『公共』とは何か
～中北地区の学校・家庭・地域の連携を考える～」
- コーディネーター:堀井啓幸氏

○日時:平成22年10月26日(火)
午後2時～4時30分

○場所:日本航空学園内 J-ship ホール

○問い合わせ先

中北教育事務所 地域教育支援スタッフ
TEL0551-23-3008 FAX0551-23-3013

第5回中央市教育振興大会 大会テーマ…生きる力をはぐくむ

8月17日(火)に玉穂生涯学習館ホールにて、219名の参加を得て、第5回中央市教育振興大会が開催されました。この大会は、学校・家庭・地域が共に手を携え、子どもたちの教育を考えようとしたもので、実行委員長や運営を市のPTA連絡協議会が担っています。保護者が中心となり、学校、市教育委員会と一緒に、活動するというすばらしい大会です。



玉穂中学校生徒とPTAの発表

今年の講演は、中央市の出身で、紫綬褒章受賞者の中沢正隆東北大学教授から、光ファイバーの最先端の技術と日本の科学技術立国としての将来について提言がありました。

開会に先立って、玉穂南小学校の児童会の紹介と、アトラクションとしてダンスクラブの発表が行われました。また、玉穂中、田富小、三村小学校の活動紹介が行われました。

玉穂中では、PTA会長からPTA活動の報告と、「中学生海外語学研修」でオーストラリアから前日帰ってきたばかりの生徒会長による報告がなされました。比志教育長からも、親しくお話があり、保護者・学校・行政の3者が、近い距離で語りあう、中央市の雰囲気を感じられました。

協調と自立の手作りのキャンプ グリーンスクール2010開催

南アルプス市伊奈ヶ湖にある県民の森を会場に、南アルプス青年会議所主催で、小学3年生から6年生まで、21人が参加して、7月31日(土)8月1日(日)の1泊2日で開催されました。



みんなで協力してパン作り

開会式後、5つの班に分かれて、それぞれに青年会議所のメンバーも補助で入りました。早速、夕飯の準備が始まりましたが、「共同作業として自炊を体験することで、家族、食べ物そして自然に対して感謝すると共に、仲間との協調の精神を培うこと」も目的の一つだそうで、ご飯を炊くための青竹飯ごうを作るところから始め

ていました。のこぎりやナタなどの普段あまり使わない道具を体験しながら、竹はし、パン、竹バウムクーヘン作りと、たくさんの共同作業を楽しそうに生き生きと活動していました。夜は自分達で作ったご飯をもとにしたバーベキューの後、キャンプファイアーや満天の星空を体感して楽しみました。

二日目は、南アルプス市文化財課のご指導をいただきながら、縄文の衣装を着たり、狩猟体験などのオリエンテーリングを行いました。子どもたちで作った昼食のカレーは、迎えに来た保護者の皆さんにご馳走しました。保護者の皆さんは、それはそれは嬉しそうな表情で食べていました。

午後は、親子で蜜ろうそく作りを行うなど、盛りだくさんの内容を青年会議所のメンバーと子ども達と一緒に、取り組んだ二日間でした。

目的の「生活環境の異なる子どもたちの自立心や地域や年齢を超えた友情の育成」「故郷南アルプス市に郷愁を覚える思い出の共有で、未来のまちづくりの担い手を育てる」等のねらいに向けて、たくさんの創意工夫がされていました。

第6回双葉公民館まつり 盛大に開催！

甲斐市の双葉公民館では、6月26日(土)と27日(日)の2日間「第6回双葉公民館まつり」が開催されました。

日ごろ公民館を利用している団体の成果発表の場として、また地域のみなさんに公民館活動を知っていただく機会として開催されています。



地元の双葉西保育園年長児の

双葉ジュニアリーダー会も協力

カラーガードの演技がオープニングを飾り、展示発表では、書道や短歌、編み物などの12団体と地区参加者の写真展示、双葉甲府幼稚園児や双葉中学校美術部の作品展示などがありました。27日の舞台発表では、初参加のふたばジュニアコーラスの素晴らしい歌声や、民謡、太極拳など17団体が熱心に発表する姿が見られました。

また、今年は子どもたちにも公民館に訪れて欲しいという願いから、展示会場をスタンプラリーで回ったり、押し花や水彩画などの体験に加え、「折り紙教室」「親子3B体操」「セラピードッグとのふれあいコーナー」「天然酵母パン作り体験」など親子で楽しめるイベントを行うなどの工夫がされ、多くの家族連れ参加が目立ちました。

キャリア教育の現在

中北地区公立高等学校の到達点 その1

取り組みが求められるキャリア教育

昨年度から段階的に施行されている新しい学習指導要領には、キャリア教育を行うべきことが盛り込まれています。中央教育審議会のキャリア教育・職業教育特別部会では、義務教育から高等教育までの体系的・組織的なキャリア教育の在り方についての検討が進んでいます。

平成21年度から施行されている「やまなしの教育振興プラン」で『体系的なキャリア教育の推進』が重点施策となっており、その具体的な施策

として公立の小学校、中学校、高等学校に置かれたキャリア教育コーディネーターの研修が始まっています。

国も、山梨県も、各学校にキャリア教育の取り組みを求める状況になってきています。

今回、ご参考として高校のキャリア教育の事例をお伝えします。高校、特に専門高校は他の校種と比較して職業や就職に近いので多くのキャリア教育の蓄積があります。第1回として中北地区の二つの工業高校についてご紹介します。

「蕪工キャリア教育」 蕪崎工業高校

体系化されたキャリア教育 下の表「蕪工キャリア教育」を見てください。生徒が自己の適性や社会の動向を見据えて職業研究を進めて、就

職・進学に向かう様子がわかります。これは教育課程や生徒募集の方法をはじめとして多くの点で工夫・改善をかさねて整備されてきたものです。

平成22年度『蕪工キャリア教育』～ 生徒一人ひとりの進路選択と決定のために～		山梨県立蕪崎工業高等学校
3年	進路最終決定	 <ul style="list-style-type: none"> ★進路講話 2/10 (木) 社会人が知っておきたい労働法の知識 9/15 (水) ★進学模擬面接 進学者対象に面接指導 9/1 (水) ★就職模擬面接 就職者対象に面接指導 9/1 (水) ★インターンシップ (就業体験3～10日間) ★オープンキャンパス・学校説明会 ★キャンパスジョブカフェ 7月～8月 (2回) ジョブカフェやまなしのキャリアカウンセラーによる実践的な指導 ★企業訪問職場見学希望者指導 6/23 (水) ★産業事情説明会・最終決定進学ガイダンス 6/16 (水) 進学者: 大学・専門学校・就職の最終進路決定 大学: 推薦入試対策 (面接・小論文)・代表校説明 専門: 各専門学校からの具体的な学校説明 就職者: 産業事情説明会
2年	職業理解と進路	<ul style="list-style-type: none"> ★進路ガイダンス 2/18 (金) 大学・専門学校・就職の3ジャンルに分かれ 大学: 推薦入試を中心とした受験指導 専門: 各分野内容の徹底研究 就職: ワークショップ・就職状況とマナー講習 ★県内企業見学 2/16 (水) バスで6コースの企業 (3社) を見学 ★体験型職業理解 (模擬授業体験) 10/20 (水) 校内で実際に職業体験を行い職業観を養う ★ジェニア(インターンシップ) (就業体験3日間) 6月・9月・11月 勤労観・職業観の育成 ★職業講話「インターンシップの心構え」 5/19 (水)
1年	進路とは何を見	<ul style="list-style-type: none"> ★職業理解ガイダンス 3/11 (金) 自分の進むべき職業の実態を把握 自分の適性やどうやってその仕事につくのか理解 ★進路講話 (進学・就職) 12/8 (水) 備いを残さない・早めに決定する進路選択 進路意識を早期に芽生えさせる講話 ★系列決定 9/6 (火) ★職業講話「職業と産業の理解」 6/16 (水) 職業分類や産業分類についての理解 ★系列説明会 6/15 (火) 保護者同伴 ★企業・上級学校見学会 6/2 (水) 上級学校・企業に対する興味をもつ バスで5コースの上級学校 (2校)・企業 (1社) を見学する ★職業適性検査「進路クラブ」 4/21 (水)



学科選択／高度な技術・技能を追求 この数年間を振り返りながら同校のキャリア教育の特徴を考えてみます。第一に、生徒募集と学科選択の方法です。生徒の希望や適性と専門分野のミスマッチ、あるいは不本意入学を防ぎ、生徒が意欲的な進路選択を行なうことが出来るよう学科の枠を取り払っての一括募集 (入学)、入学後に高校の学習内容の実際を見ての系列選択 (学科選択) を行なう同校独自のシステムが採用されています。第二に、工業高校として教育内容の専門性を高める努力です。その先端部分といえるのは「地域連携ものづくり人材育成事業」による地元企業や山梨県立産業技術大学校と結んで行っている企業実習や技能資格取得のための授業です。従来は高校生では考えられなかった高度な製作技術習得や技能資格取得がこれにより実現しています。

基礎学力・道徳教育の重視 第三は、専門教育とともに基礎学力の向上、道徳教育の充実が同時並行で進められたことです。同校独自の「学力向上プロジェクト」が進められ、また平成19・20年度文部科学省道徳教育実践研究事業の指定校となり、「豊かな心を持った産業人の育成」が図られました。教育信条「よき技術者となるまえに、まずよき人間となれ」にふさわしく人間教育にも意が注がれています。

着々とした成果／文部科学大臣表彰 残念ながらスペースの関係で「蕪工キャリア教育」で行われている教育活動のすべてをとりあげることが出来ません。同校は、昨年度、長期不況下にあっても就職希望者全員が進路を確保しました。国公立大学合格者も出ています。高度の技能資格の取得、ロボットコンテストやエコカー競技等で

の上位入賞などもあいついでいます。多くの地域の人々から同校の生徒が「頼もしく見えるようになってきた」という声を聞きます。企業実習に向いた後のアンケートに、「自分たちの学校は信

用されていると感じた」との生徒の記述がありました。生徒は変わってきています。同校は、平成20年度にキャリア教育の充実発展に尽力したことで文部科学大臣表彰を受けました。

「スーパー甲府工業構想」実現をめざす 甲府工業高校

目標は全国トップレベルの工業高校 甲府工業高校は、「スーパー甲府工業構想」を掲げて新しい時代に対応した工業教育に取り組んでいます。この構想の三本柱は、「ものづくり教育」・「進学対応」・「部活動の強化」です。それは、「工業教育の専門性を高める」・「国公立工業系大学を目指した指導体制と教育課程の改編」・「人間教育の充実」と言い換えることが出来るものです。このなかでキャリア教育の指導体系がつけられ、それは「ものづくり教育」と「進学対応」の重要部分を占めています。(詳しくは同校の「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業研究報告書」をご覧ください。)

高度の専門性を追求 同校のキャリア教育体系にも、「地域連携ものづくり人材育成事業」が取り入れられています。ここではこの事業による高度の専門性の追求について紹介したいと思います。

電気科での同事業による授業を見せていただきました。科目「課題研究」で、3年生8名が各種自動制御盤の設計や工場の設備設計・施工・保守をおこなう会社を経営される石川勝秀氏が指導する授業を選択しました。ある企業の製品製造に関する制御システム等を教材とし、企業現場での現場実習を含む科目です。「プロとしてカネが

もらえる仕事をしなくっちゃ」等といった企業人・技術者ならではの言葉で生徒に心構えを説いた後、話は本題の製造工程における事故への対応あるいはエネルギー確保の問題に入っていました。石川氏の現場発の問いかけに対して生徒が次々と対応策を出しそれを黒板に書き上げ、石川氏と生徒全員がその是非について発言を重ねていく展開でした。「最新の技術でも3年で古びてしまう。だから生徒には常に新しい技術を取り入れるセンスを身につけてほしい」と石川氏は語ります。電気科長の時田透先生は「この授業を生徒がより高い技術に対する意欲を持つ動機付けと位置づけています」と話されていました。



企業人・技術者による授業



まとめにかえて

2校の事例紹介だけですからまとめをする段階ではありません。ここまでお話をうかがうなかで印象に残ったことを記します。

まず、形式よりも中身が大切ということです。インターンシップ(就業体験)についての先進的な取り組みをしている高校の先生が情報交換会でこう答えられました。「キャリア教育を行っていく上でインターンシップを必ずしなければならないとは思いません。キャリア教育とは、将来のある生徒たちが働くこと、職業を持つことに必要な態度や能力を身につけることです。普通教科でも、日常生活の中でも、出来ること、やるべきことはたくさんあります」

人間教育の重要性がしばしば取り上げられました。キャリア発達のための知識や技術はもちろん必要ですが、礼儀やマナー、協調性、他を思いやる気持ち等、一言で言えば人間教育がどこでも重要視されていました。

キャリア教育は、各校がそれぞれで指導計画を作成し実践していくものでした。すべての教育活動に言えることですが、キャリア教育もそれぞれの学校の教育目標や育てたい児童・生徒像により組み立てられています。

次回は、農業の専門高校と総合学科高校について紹介したいと思います。

平成22年度『中北.com』No.3

編集・発行

中北教育事務所地域教育支援スタッフ

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3008

ファクス 0551-23-3013

『中北.com』は中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

アドレスは次のとおりです。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>